

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
経営協議会（第60回）議事要旨

1. 日 時 令和元年11月29日（金）10：45～13：05
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 小森議長、北城委員、國井委員、斎藤委員、澤岡委員、高橋委員、高柳委員、中村委員、徳田委員、金子委員、井本委員、竹入委員、鍋倉委員、川合委員
(陪席者)
二宮監事、国立天文台 斎藤研究連携主幹、基礎生物学研究所 上野副所長
(事務担当者)
岡田総務課長、中野企画連携課長、鈴木財務課長、宮内施設企画室長、国立天文台 笹川事務部長、核融合科学研究所 西山管理部長、岡崎統合事務センター 棚木事務センター長及び三好財務部長 他
(研究成果発表者)
重信 秀治 教授（基礎生物学研究所）
4. 配付資料
 - 1 経営協議会（第59回）議事要旨（案）
 - 2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構長候補者の決定について
 - 3 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 次期分子科学研究所長について
 - 4-1 機構における役職員給与の改定について（案）
 - 4-2 令和元年人事院給与勧告の骨子
 - 5 自然科学研究機構における“新承継年俸制”について（案）
 - 6-1 平成30年度に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）
 - 6-2 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果 大学共同利用機関法人自然科学研究機構
 - 6-3 国立大学法人・大学共同利用機関法人の平成30年度に係る業務の実績に関する評価について（所見）
 - 6-4 国立大学法人等の平成30年度評価結果について
 - 7-1 2018（平成30）事業年度財務諸表の承認について
 - 7-2 平成30事業年度財務諸表の解説
 - 8 第8回自然科学研究機構若手研究者賞授与式及び記念講演について
 - 9 第28回自然科学研究機構シンポジウムについて
 - 10 研究大学コンソーシアムシンポジウム（第3回）について
5. 議事等
議事に先立ち、事務局から定足数の確認があった。

1) 前回議事要旨（案）について

前回経営協議会（第59回）の議事要旨（案）（資料1）が了承された。

2) 自然科学研究機構長候補者の決定について

事務局から、資料2に基づき、自然科学研究機構長候補者の決定について報告があった。

（主な意見等は以下のとおり）

- 6年を超えても再任できるような規程の見直しを検討しても良いのではないかな。
- 本機構としては、6年のままだが適切ではないかと考えている。

3) 次期分子科学研究所長について

小森議長から、分子科学研究所長選考委員会より、川合 眞紀 氏（現 分子科学研究所長）を次期分子科学研究所長候補者（任期：令和2年4月1日～令和4年3月31日（2年））として推薦があり、役員会で確認の上、決定する旨の報告があった。

4) 機構における役職員給与の改定について

徳田委員から、資料4-1及び資料4-2に基づき、機構における役職員給与の改定について説明があり、審議の結果、案（資料4-1）のとおり了承された。

5) 新承継年俸制について

徳田委員から、資料5に基づき、新承継年俸制について説明があり、審議の結果、案（資料5）の方向で導入していくことが了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- 現行の年俸制は退職手当相当額が含まれているが、新年俸制で退職手当を切り離すことによる税制上のメリットはあるのか。
- 今後、退職手当が減っていくことが予想されるので、一概には言えない。
- 研究者の給与について、モデルケースが示せられれば良いのではないかな。
- 基本給部分は現在の月給制と基本としているので、現在の給与と大きくは変わらないが、業績給部分については裁量幅が大きくなるので、業績優秀な研究者の給与は増えることになる。限られた予算で運営しているため、長期的に考えて運用していかなければいけない。
- 数値だけで評価を行うと本来の評価とは異なる結果になってしまうので、評価者が総合的に評価する仕組みにすることが重要であり、そのためには評価者に対する研修が重要である。
- 大学共同利用機関であるため、学術成果だけでなく装置の運用など共同利用・共同研究への貢献についても評価項目としている。また、新年俸制導入に合わせて、給与制度ごとに異なっている評価の統一を図る方向で検討してい

る。

- 本人からの異議申立てについて、どのような対応を行っているか。
- 核融合科学研究所では、各項目について非常に細かく評価点数の基準を設けており、それらに基づき行った評価の結果を所属長と研究者が一对一で面接を行い、フィードバックしている。また、評価項目と評価基準については、研究者からの意見を踏まえて見直しを行っている。
- 予算に限りがあるため、良い仕事をしたにもかかわらず、評価を上げられない研究者に対する説明に苦慮しており、納得してもらうための工夫が必要であると考えている。
- 目標を高く設定すると納得感が高まるので、挑戦的な目標を立てるようにすると良いのではないか。
- 人件費の総額を上げることはできないのか。
- 物件費から回すことも可能であるが、基盤的な運営費交付金が毎年減っていることから、難しいのが現状である。
- 息の長い研究を行う場合は、安定した給与が重要な要素だと考えている。
- どうしたら良い成果がでるのかを評価者がよく考えて、数値ばかりにこだわらないで総合的な評価を行っていただきたい。
- 高い評価をした研究者については、以降はその高い評価レベルで評価することにより、全体のバランスを取ったほうが良いのではないか。

6) 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について

金子委員から、資料6-1から資料6-4に基づき、平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

7) 平成30事業年度財務諸表の承認について

徳田委員から、資料7-1及び資料7-2に基づき、平成30事業年度財務諸表の承認について報告があった。

8) 第8回自然科学研究機構若手研究者賞授与式及び記念講演について

川合委員から、資料8に基づき、第8回自然科学研究機構若手研究者賞授与式及び記念講演について報告があった。

9) 第28回自然科学研究機構シンポジウムについて

竹入委員から、資料9に基づき、第28回自然科学研究機構シンポジウムについて報告があった。

10) 研究大学コンソーシアムシンポジウム（第3回）について

金子委員から、資料10に基づき、研究大学コンソーシアムシンポジウム（第3回）について報告があった。

1 1) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、基礎生物学研究所の 重信 秀治 教授から「環境適応研究のための新興モデル生物「アブラムシ」と題して発表が行われ、意見交換があった。

1 2) その他

小森議長から、TMT計画の現状について説明があり、意見交換があった。

以上